不定期刊行　　第440号　2012.02.17

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

今年の足跡・・・中信高校山岳部年報　No.35 発刊

1977年に前身の「中信高体連年報第1号」を出版した「中信高校山岳部年報」の今年度版No.35が完成した。今年原稿を寄せてくれた学校は、北から白馬、大町北、大町、池工、明科、松本深志、松本県ヶ丘、塩尻志学館、木曽青峰（全）、木曽青峰（定）の9校10課程。昨年まであった松本美須々ヶ丘が消えてしまったのはなんとも寂しいが、北アルプスのお膝元にある学校として、中信地区の高校山岳部の存在意義は大きい。今年の年報の編集後記を以下に掲載し、紹介に変えたい。

今年はいろいろなことがあった年であった。記憶に残る3.11の大地震と原発禍の問題はこれからの世界に大きな影響を与えることになるだろう。

世の中が全く先行きの見えない中、長野県山岳協会は50周年を迎え、その記念事業の一環として小生も関わった信濃高等学校教職員山岳会の「ヤズィックアグル峰」への遠征が実施された。この時勢の中、果たして行なうことがいいのかどうなのか、実施にあたっては逡巡した。しかし、我々は敢えて挑戦するその姿を見てもらうことで、多くの方、とりわけ高校生に夢を与えることができるはずという思いで、7 月崑崙山脈に気高く聳える峰へと足を進めた。そして、多くの方々の支援のおかげで2011年8月4日未踏の同峰への初登頂を果たすことが出来た。

「諦めないこと。夢を持ち続けること。みんなありがとう。」隊長の松田大先生（現県ヶ丘高校）が、大町高校時代の教え子の三戸呂拓也君とともに立ったその山頂で、口にしたその言葉を今この年報を手にした高校生のみなさんに送りたい。

かつてクラーク博士はこういった。「Boys be ambitious like this old man」と。今僕らもいう「 高校生よ！夢をもとう。我らのように。」と。

財政難のおり、ご購入いただければ幸いです。ご希望の方は大西までご連絡ください。早速お送りします。

冬のライチョウの生態を見に行きませんか

積雪期ライチョウ観察会のお誘い

長野県山岳協会自然保護委員会では、普段は見ることのできない積雪期白い姿のライチョウの生態観察会を乗鞍岳でおこなう。絶滅が危惧されているライチョウの積雪期生態を乗鞍岳位ヶ原山荘付近の生息域で観察し、専門家からライチョウの生態などの話を聞くという内容で、講師は信州大学教育学部教授　中村浩志氏だ。中村さんは、これまであまり知られていなかった冬場のライチョウの生活について、夏場より下に下がって雌雄別々に棲むことを明らかにされたが、その研究のフィールドが乗鞍である。この観察会は昨年３月に計画されていたものだが、直前に起きた東日本大震災のあおりで中止のやむなきにいたったものである。参加を希望される人は、要項の内容を確認された上で申し込みをしてください。

日程：２０１２年３月１７日（土）～１８日（日）　（１泊２日）

３月１７日（土）　8：30　乗鞍スキー場第三駐車場に集合。リフトでスキー場上部に移動した後、歩いて位ヶ原山荘に登ります 昼食後、山荘周辺の生息場所で観察をおこないます。（昼食は各自。位ヶ原山荘で食べることもできます）

３月１８日（日）朝食の後、小屋周辺の積雪期生息域で雷鳥の観察を行います。13:00頃から下山開始し、15:00頃の解散を予定しています

※　時間は天候や積雪の状況で変更することがあります。

募集対象：長野県山岳協会会員（山岳保険加入者）、雪山登山経験のある一般者（保険に入ってない人は入って頂きます）合計２０名程度

申し込み：申し込み用紙に記入の上、長山協事務局までお送り下さい。

締め切り：２月２９日（水）

詳細ならびに申込書は長山協ＨＰ

http://www.nmaj.org/branch/shizenhogo/2011/003.htmよりダウンロードできます。

厳冬の八ヶ岳　阿弥陀南稜

2 月 11、12 日、高遠高校の久根さんと二人で八ヶ岳阿弥陀南稜へ登ってきた。初日は舟山十字路から青なぎ上部まで、雲一つない青空の下、二人でのんびりと山を満喫した。北信地方の大雪に比し、八ヶ岳は極めて雪の少ない状態であった。もっと人が大勢いるだろうと思っていたが、豈に図らんや、先行パーティのトレースはあったが、追いつかず後続単独者が夕刻にやって来ただけだった。歩き出しは 8 時 45 分、13 時には青なぎに着いた。時間的には先に行くこともできたが、景色もいいし、急ぐこともあるまいとここをテン場と定め、早速宴会モード。正面には阿弥陀が、南には権現が迫力のある姿で白い岩肌を惜しげもなくさらし、北には蓼科山の端正な姿も美しい。

2 月 12 日は、昨日とは変わり朝からガスがかかっていた。出発しようと準備をしていると下部にテントを張っていたと覚しきガイド登山の一行 4 名が、先行していった。気温は−22 度。登り初めてもなかなか指先が温かくならない。樹林帯を抜け、南稜の登りにかかる 2250m地点で一本取っていると、松本ＣＭＣのメンバーが 4 人軽装で登って来た。何でも朝 4:30 に駐車場に集合して登って来たとのこと。この先頂上までは、3 パーティがつかず離れずで進んでいくことになった。8:15 にＰ１、8:30 にはＰ２を巻き、8:57 には核心部のＰ３の下部に到着した。結局我々は最後になってしまったので、ここで 20 分ほどの待ちを強いられたが、ルンゼにはアイゼンが心地よく決まり、快適な登攀。9:38 にはＰ３の上部に抜けた。稜線では北西からの風が吹き荒れ、時折 10mは優に越えている。気温は上がらないので、左頬が冷たい。Ｐ４を登って風下に回った頂上直下で一本。10:20 には頂上に到着した。ヤズィックアグルの僚友久根さんと二人、久しぶりの厳冬期のバリエーションルートは、なんとも八ヶ岳らしいキーンと身の引き締まるような登攀だった。

あとは、権現尾根を一気に下る・・・はずだったが、途中一カ所尾根を外し、元にもどるのに雪が深くて往生した。重い荷に 40 分ほどのアルバイトは応えた。13:40 御小屋山。周回して舟山十字路の駐車場に到着したのは、14:20 だった。